



横浜市立 瀬谷さくら小学校

## 学校運営協議会だより

平成27年11月30日

平成27年度・第2号

共に学び、共に創る地域の学校「瀬谷さくら小学校」

～みんなの力で守り育てよう、瀬谷さくら小学校・さくらの子～

### 『さくらの子』に温かい見守りのご指導を

瀬谷さくら小学校 学校運営協議会 会長 網代宗四郎

鮮やかな秋の彩が見られる季節になりましたが、皆様にはお健やかに過ごしの事とお慶び申し上げます。日頃は、瀬谷さくら小学校および学校運営協議会の運営に、温かいご理解とご支援をいただいておりますことに心より感謝申し上げます。さらに、児童の皆さんが安全に安心して登下校できるよう、見守りと交通安全指導を行って頂いております。交通事故の発生もなく、また、犯罪に巻き込まれることもなく、児童の皆さんが元気で伸び伸びと学校に通えるのも、偏に皆様のご努力のお蔭と厚く御礼申し上げます。

さて、今年度も、早いもので、8か月が過ぎようとしております。児童の皆さんが、お友達と模擬店で買い物をしたり、ゲームをしたり、美味しいものを食べたり、また、瀬谷音頭を踊ったりと、楽しく過ごされた7月25日、26日開催の「さくら小地域夏まつり」のことは、とてもよい思い出になったことと思います。



10月4日土曜日、待ちに待った運動会の日です。大変暖かな秋空の下、校庭いっぱいに、児童の皆さんの紅白応援合戦や徒競走に、演技に、頑

張ってられる姿がありました。

さらには、各係の役目をお友達と力を合わせて、全力で取り組まれていました。すべての児童の皆さんが、眩しいほど輝いて見えたのは、私だけではないと思います。

何事にも真剣に取り組む素晴らしい気持ちを、何時までも持ち続けてほしいと願わずにはられません。

今頃は、12月5日に開催される「学習発表会」の準備や練習に、各学年の皆さんが心を一つにして取り組んでおられることでしょう。各学年ごとの特色ある発表が今から楽しみです。

武藤校長先生はじめ、諸先生方の熱意あふれるご指導を受けられ、更に、地域の皆さんの学習支援活動などのご指導、保護者の皆様のご指導が、いずれも愛情を込めたものでありますので、児童の皆さんがすくすくと成長されるのだと、つくづく感じております。

皆様、今後とも児童の皆さんに、限りない愛情とご指導を賜りますようお願い申し上げます。尚、学校運営協議会の活動全般について、および、各部会の活動を、保護者の皆様や地域の皆様に知っていただきたいと考え、「ふれあい活動展」を開催させていただきます。12月5日に開催されます「学習発表会」で来校されました際は体育館で、その後は職員室前の廊下に、掲示していただきますので、是非ご覧くださいませようお願い申し上げます。

結びに、皆様の益々のご健勝とご活躍を心よりお祈り申し上げます。



## 継続を力に

瀬谷さくら小学校 校長 武藤 牧子

今年度も、あいさつが進んでできるように学校全体で取り組んでいます。毎年、目標に掲げ、コミュニケーション力につながる挨拶に取り組んでいます。しかし、今年度は昨年との違いがみられます。

一つは、児童の意識です。自分から挨拶ができる児童の姿が増えたように思います。朝や帰りの挨拶だけでなく、日常の廊下でのあいさつや会釈ができる児童が増えています。朝練のために登校した児童の中には、校長室が開いているのに気が付くと「おはようございます」と、朝からさわやかな笑顔であいさつをしてくれます。受けた私も笑顔になり、朝から気持ちよく一日が過ごせるように思います。放課後、出張に出かけるときに会う児童に、「校長先生さようなら」と声をかけられ、「気を付けてね」と言葉をかけるとき、心がほっこりします。

二つ目は、学校の取組です。昨年もあいさつ隊長を編成し、一定の期間は挨拶運動を実施していました。今年度は、あいさつ運動だけでなく、保健委員会の「ふわふわ言葉」とつながるあいさつの声掛け

です。また、学級では、毎月、自分たちの生活について振り返り、良かったことやもっと頑張りたいことなどをみんなで話し合い共有し、その後の生活に役立てるような取り組みを行っています。

個人と集団と両面から、学校生活の充実を目指しています。

あいさつの励行は、学校だけの取組ではありません。地域や家庭の教育力にも起因します。家庭でもあいさつを大切にしてくださること、学援隊や地域の方が、登下校時に児童に「おはよう」「いってらっしゃい」「さようなら」「おかえり」と一声かけてくださることが、あいさつをする子を育成することに繋がっています。

『継続は力なり』といわれますが、根気強くこれからも取り組んで参ります。



## 前期学校評価

～27年度第3回学校運営協議会から～

編集部

9月28日に開かれた第3回学校運営協議会で、第1回学校アンケートの結果と、それに対する学校の改善に向けた取組方（3～4ページに掲載）が発表されました。また、その後、質疑を行い、その主なものは次の通りです。

- ・先生方が、改善に向けて大変努力されていることを私たちは知っている。外に向けて、もっと発信していくことも必要ではないか
- ・学校として改善策を講じてみたその結果がどうなったか知りたい  
⇒ この報告の中で表現するのは難しいが、別途検討する
- ・アンケートの項目が、何について聞いているのかわかりにくいので、回答にばらつきがあるのではないか。設問の統一性も必要  
⇒ 実際のアンケートでは、もう少し詳しい問いかけになっているので、提示する
- ・中学生になった子を見てみると成長を感じる。小学校での指導が生かされていると思う
- ・学校運営協議会として、もっと時間をかけて、10項目すべてについて検討する必要がある

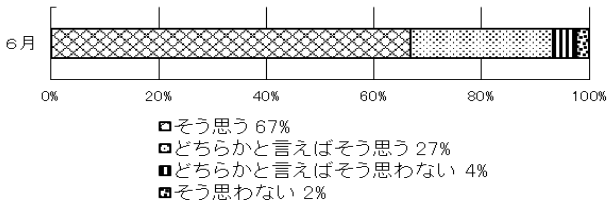
協議会では、学校評価のほか、最近新聞などで報道されている小学生の暴力や、いじめについても話題になりました。幸い、さくら小学校では「いじめは発生していない」との校長先生の報告に、一同安心しました。「いじめ」と「ふざけ」の区別は難しいことですが、まちでそれらしいものを見かけたら、声をかけたり話を聞いたりして、いじめられている子を孤立させないようにしたいものです。

# 第1回学校アンケート考察

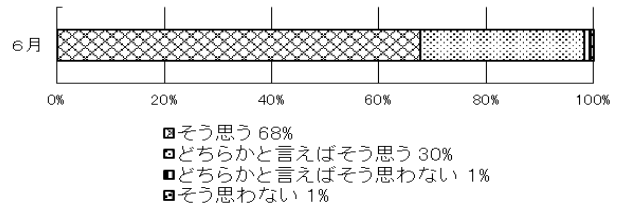
## 児童

## 保護者

学校は楽しい

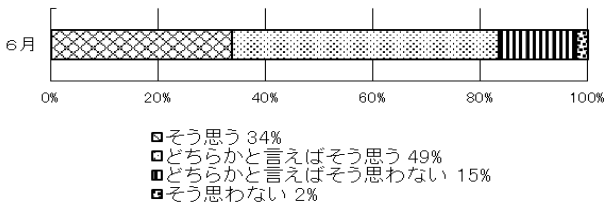


お子さんは楽しく学校へ通っている。

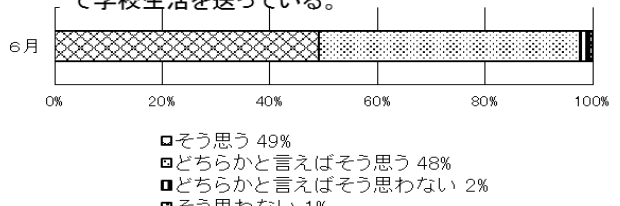


学校は楽しいと感じている児童がほとんどですが、楽しくないと感じている児童が6%います。全校児童が学校が楽しいと感じられるよう、児童へのアンケートや日々の児童の様子について丁寧にとるとともに、学校と家庭との連携を密にし、児童一人一人に寄り添った支援を行っていきます。

きまりを守って生活している

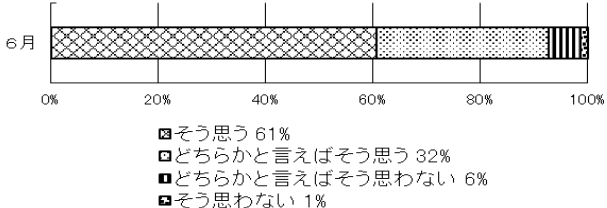


お子さんは、集団生活に必要なきまりや約束を守って学校生活を送っている。

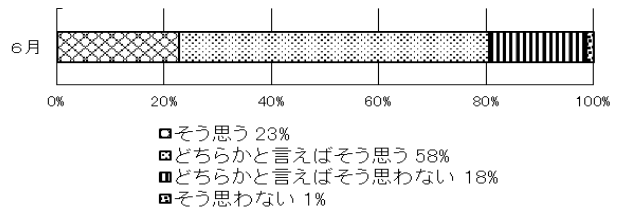


多くの児童がきまりや約束を守って生活し、保護者の方もそれを認めています。今年度は、児童が自分の生活を見つめ直し、集団生活をより良くするために、各学級で毎月「学級生活目標」を立てる取り組みを始めました。今後も保護者、地域の方々の協力を得ながら、きまりや約束を守り、物事の善悪を判断して行動できる子の育成に努めます。

勉強をがんばっている

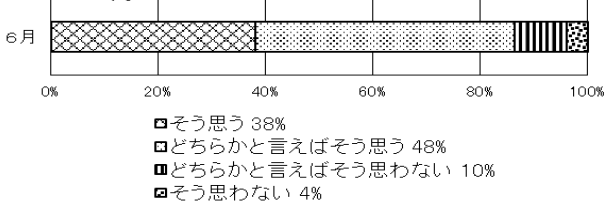


学習への意欲が感じられる。

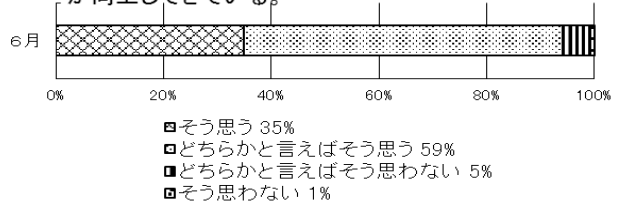


勉強を頑張っていると思っている児童と勉強を頑張っていると感じている保護者の割合に大きな差が見られます。これは、家庭学習への取り組み方や学校での学習の様子が十分伝わっていないためと考えられます。全クラスが家庭学習に取り組んでいることや学校での学習の様子などについて学校だよりやホームページ等を通し、積極的に発信していくよう努めます。

良いことと悪いことの区別をして、良いことを進んでいる。

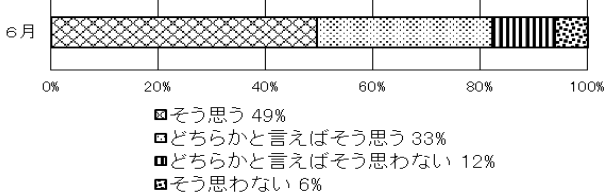


よいこと悪いことの判断の力や、よいことの実践力が向上してきている。

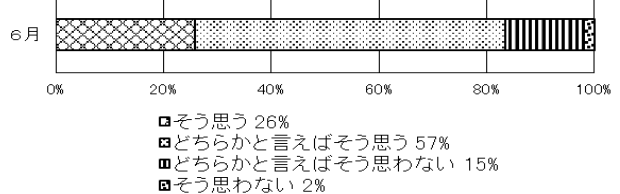


児童・保護者共に、良いことと悪いことをきちんと区別し、良いことを進んで実践していると考えているようです。しかし、「そう思う」の割合が4割に満たないことを考えるとさらに意識を高める必要があります。今後も、良いことを進んでできるように、道徳教育の充実やスタンダードの実践化を通して、規範意識を養っていきます。

漢字検定、計算検定などに取り組んでいる。

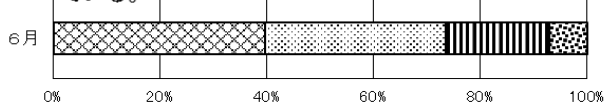


学校の漢字検定・計算検定で、基礎的な学力が身に付いてきている。



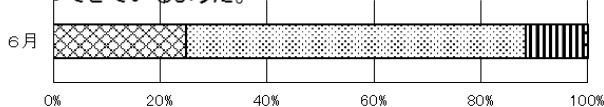
昨年度に比べて、肯定的な意見が増えてきていることから、本校の特色である検定に対する取り組みが定着してきていることがわかります。今後も自分のペースで学習を進めることができるよう、検定の趣旨やルールを児童とともに再確認し、満足感・達成感を味わうことができるものにしていきます。

授業では、自分の考えを進んで発言・発表しようとしている。



- そう思う 40%
- どちらかと言えばそう思う 34%
- どちらかと言えばそう思わない 19%
- そう思わない 7%

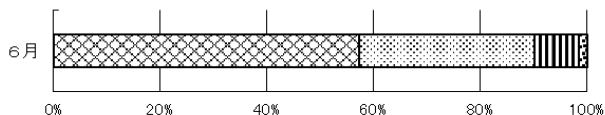
子どもたちが、自分の考えや事実を話す力が向上してきているようだ。



- そう思う 25%
- どちらかと言えばそう思う 63%
- どちらかと言えばそう思わない 11%
- そう思わない 1%

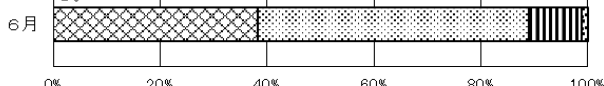
「そう思う」と答えた児童の割合が昨年度に比べて増えています。しかし、まだ自分の考えを自信をもって発言・発表ができていない児童も多いので、自分の考えをもつ時間を確保し、自信をもって発表できる機会を増やしたり、発表の仕方を指導したりしながら、互いに考えを伝え合う学習を行っています。

元気で気持ちのよい挨拶や返事をしている。



- そう思う 57%
- どちらかと言えばそう思う 33%
- どちらかと言えばそう思わない 8%
- そう思わない 2%

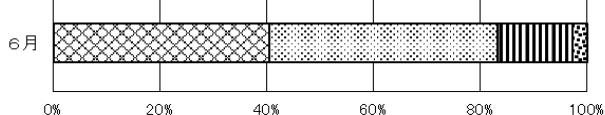
あいさつ運動や登校時の指導等の取り組みによって、子どもたちが元気で気持ちのよいあいさつができるようになってきている。



- そう思う 38%
- どちらかと言えばそう思う 51%
- どちらかと言えばそう思わない 10%
- そう思わない 1%

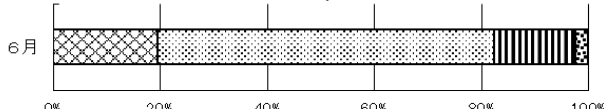
挨拶や返事については、児童だけでなく保護者の方も90%近くの方ができていると考えているようです。学校では引き続き、日常的に挨拶の習慣化を図るとともに、委員会活動に挨拶の励行を取り入れた活動を計画・実施していきます。さらに、児童が学校だけでなくどこでも元気で気持ちのよい挨拶ができるよう、学校と家庭と地域とが連携し合って取り組んでいきたいと思ひます。

よい言葉づかいや、ふわふわ言葉で話すように気をつけている。



- そう思う 40%
- どちらかと言えばそう思う 43%
- どちらかと言えばそう思わない 14%
- そう思わない 3%

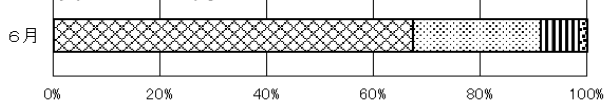
生活指導によって、言葉遣いに気をつけ、場面に応じた言葉遣いができるようになってきている。



- そう思う 19%
- どちらかと言えばそう思う 63%
- どちらかと言えばそう思わない 15%
- そう思わない 3%

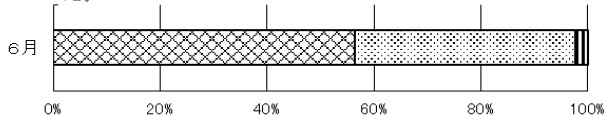
児童だけでなく、保護者の方も80%が肯定的にとらえています。学校でも「ふわふわ言葉」を使えばお互いが気持ち良く生活できることを体験しています。遊びやその他の日常生活の場面では、意識できていないことがあります。場面に応じた言葉遣いの大切さを繰り返し指導していきますので、ご家庭でも気にかけていただき、声かけをお願いします。

ペア学年や、縦割り活動などで、他の学年の人とも仲良くできている。



- そう思う 67%
- どちらかと言えばそう思う 24%
- どちらかと言えばそう思わない 7%
- そう思わない 2%

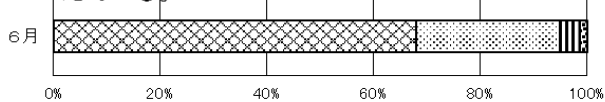
ペア学年・縦割り活動で、他学年との交流を楽しんでいるようだ。



- そう思う 56%
- どちらかと言えばそう思う 42%
- どちらかと言えばそう思わない 2%
- そう思わない 0%

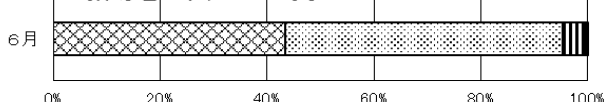
90%以上の児童と保護者の方が「ペア活動」や「たてわり活動」などの異学年交流ができているとらえています。今年度は、日常的にペア学年での活動を取り入れ、自然に異学年交流ができるような取り組みを行っています。たくさんの友達と関わりあいながら、今後も自分や友達のよさを見つけていけるように支援していきます。

授業でわかることやできるようになったことがふえている。



- そう思う 68%
- どちらかと言えばそう思う 27%
- どちらかと言えばそう思わない 4%
- そう思わない 1%

瀬谷さくら小学校では、基礎基本が身に付くように指導を工夫している。



- そう思う 43%
- どちらかと言えばそう思う 53%
- どちらかと言えばそう思わない 4%
- そう思わない 0%

うれしいことに95%を超える児童が「授業でわかることやできるようになったことが増えている」と答えています。さらに「読み・書き・計算」など基礎・基本の定着を図ることや教材研究をすすめ、児童が興味・関心をもって主体的に取り組めるような授業実践を行い、わかることやできるようになっていくような授業づくりに取り組みます。

さくらの子応援隊

# 自由とルール

瀬谷マジッククラブ 南瀬谷ニュータウン自治会 菅野 弘

「キャー、弱く投げて」「随分、飛ぶね！」今日も、公園から子どもたちの元気な声が聞こえてくる。恐らくボール投げやプランコで遊んでいるのだろう。

子どもの声を聞くと何とも爽やかで明るい気分になるから不思議だ。この子どもたちが学校で学を身に付け、街で思いっきり声を出し体をフル回転させながら健やかに育ち、常識を備えた立派な大人になってほしい、と願いながら無意識に家の玄関を出て公園に向かおうとした。その時突然、三叉路の反対側道路から3、4人の子どもが自転車に乗って、反対車線の安全を確認することなく、左折して競争しながら私の方へ向かってきた。思わず両手を左右に広げて自転車を停止させ、「反対の道路へ出る時や右左折する時は、必ず一旦止まって人や車が来ないか確認してから走るんだよ」と教えると、子どもたちは「うん、分かった」と素直に答えて走って行った。後ろから見ていると、次の三叉路手前で一旦停止し、左右を確認しているのが見え、思わずほっとした。

万一事故が起きれば、本人が一番痛い思いをするばかりでなく、相手が歩行者であれば、子どもの親が何千万円という慰謝料や見舞金で悩むことになり、車だったら運転手さんやその家族が一生心の痛みを背負って生きていくことになるだろう。一寸のルール違反が、本人や周囲の人を思わぬ不幸に巻き込んでしまうことになるんですね。



今年も、さくら小学校の運動会を見せていただいた。武藤校長先生が「学校だより」紙上で、全校生徒の活躍のすばらしさを称賛しておりましたが、全く同感です。この成果は、全生徒は勿論、先生方皆さんが、運動会というスポーツを行う上での「ルール」を守りながら全力投球した結果表現できたものと、自分のことのように温ったかい気分になっています。

さくらの子応援隊

# ウクレレ友遊会とさくら小の子どもたち

南瀬谷ニュータウン自治会 野口 元



10年前に南瀬谷ニュータウンの有志で伊豆に泊り掛けでゴルフに出掛けた時に、メンバーの一人の戸田さんが、ウクレレと一緒にやらないかと話を持ち出した。酔った勢いでその場で数人が集まり「ウクレレ友遊会」が結成されました。ウクレレを買ったりコミスクを練習場に手配するなどして半年後位から練習を開始しました。1年経って練習不足を顧みずニュータウンのお祭り、敬老会などで演奏会に出て演奏を披露しました。現在は田中弘子さんを先生にメンバー11人で本校はじめ各地ケアプラザ、地元サロン、敬老会、文化祭等で忙しく活動しています。

平成20年になって当時は下瀬谷小学校でしたが、古川校長先生と音楽の石川先生に我々の演奏のビデオを見て貰い、図々しくも子どもたちにウクレレを聞いて貰えないかと持ち込みました。両先生も困ったなと思ったのでしょうか、翌年になって1、2年生の音楽の授業に取り入れて頂く事になりました。大喜びでしたが、何時ものハワイアンもたどたどしいのに、当時の児童が歌っている曲は演奏は

もちろん聞くのも初めてで、これは大変と猛練習をしました。1年生が2校時、2年生が3校時で、それぞれハワイの曲の演奏、ウクレレとピアノなどで子どもと合奏、合唱、そしてウクレレを10数台持ち込み「かえるの合唱」を1回に15人ずつで全員に演奏してもらうなど大成功でした。

子どもたちからは、「とっても楽しかった」「ハワイに行ったみたい」「もっと演奏したい」「ハワイの曲はとっても素敵」「また来てね」などと喜ばれて全員大感激でした。今年で7年目になりますが、毎年楽しみに楽しくやっています。



5年ほど前に、「はまっ子」の青木チーフからはまっ子でもやってよと声をかけられ、七夕とクリスマスの年に2回、手品のメンバーとお邪魔して、演奏をさせてもらってます。また今年は「1年生との交流会」でもウクレレ演奏の実技を手ほどきして子どもたちに喜ばれています。

メンバーの満足だけでなく、子どもたちに少しでも喜んで貰えればと、60の手習いのウクレレにこれからも励んでいきます。

学援隊

## 子どもたちの笑顔で私たちも笑顔

下瀬谷団地自治会 山下久美子

朝の見守り、教育支援など、少しずつお手伝いをしてきました。



算数支援では、頭が固くなっていく私にとって、教わることも多くあり、ポケ防止になっていま

す。また、子どもたちの笑顔で、私たちも笑顔になったり、いろいろな自治会の方々との交流ができるなど、おまけがたくさんついていきます。

楽しく参加しているのでも続いているのだと思います。皆様も少しずつ参加して、元気でいられるよう願っております。



学援隊

## 青パトとアルミ缶売り

南瀬谷ニュータウン自治会 野口 元

平成17年は小学生が絡んだ悲惨な事件が多発していて、世間に嫌な雰囲気にあった年でした。下瀬谷小学校、日向山小学校で事件があったわけではありませんが、学校の見守りが必要だと感じられる時代でした。そんな中で17年6月に両校に登下校の見守りが始まったのです。18年11月に藤本校長からの要請で「下瀬谷小学校校内ボランティア活動」と名称変更し、19年5月に古川校長から「下瀬谷小学校学援隊」（隊長・PTA会長青木徹氏）として横浜市に登録要請をして、現在の「学援隊」が発足しました。その年に回転灯とスピーカーを瀬谷警察から寄贈され、青パト（屋根に青色回転灯をつけて学内を巡回パトロールする車）の導入の検討を始めました。幸いなことに靱山金久前下瀬谷自治会長から車輛を寄贈されて青パトが実現したのです。

そして19年12月から運用が開始されましたが、校内に車を置くことが認められず、かといって適当な駐車場も無く、今の位置に隠して置くこととなりました（その後、教育委員会から許可された）。また、車検代と保険代は有り難い事に靱山さんから出して頂きますが、ガソリン代などの運用資金をどうするか悩んでいる時に、下瀬谷の染谷勝三さんがアルミ缶売却の話を持ち込んでくれました。直ぐに飛びつき現在に至っている訳です。



青パトに積んで回収業者の「横浜アルコ」まで運ぶのですが、スペースの関係で缶

を潰さないと積みきれず、伝説の「缶つぶし」が始まりました。10人程の人間が集って、1回の売り上げが1,000円にもならず、帰りの車で歯ぎしりをした事もありました。しかしこの頃は、地域の方々にも協力していただき回収量が増え、前PTA会長の太田和夫さんからトラックをお借りして運んでいることもあります。



そして27年2月16日に待望の青パトの新車が来ました、日本財団の援助と学援隊の積立金で買うことが出来ました。この新車のお陰でアルミ缶を潰さずに売却出来るようになりました、缶つぶし作業から解放されて万歳！アルミ缶の回収はひなた山地域でも行われて売上は増加しています。しかし売上はその時の相場に左右され、北京オリンピック、東京オリンピックが決った時は急上昇しましたが、最近半値近くに急落して売り上げが落ち込んでいます（9ページのグラフをご覧ください）。

今は、交流会やPTAから多額の資金援助を頂き、青パトの運用は余裕のあるものとなっています、感謝感謝です。学援隊、青パトについては19年からの青木隊長、22年からの靱山隊長、25年からの馬場隊長にはひと方ならぬご苦勞をお掛けしました。青パトの登録申請、名義人となること、資金援助など詳細は省きますが感謝申し上げます。そして何より「瀬谷さくら小学校の児童」のため、「この地域」の安全安心のために「学援隊」が「青パト」が更に活躍し役立つことを願っています。

地域連携

## 絆を深める夏祭り～さくら小地域夏祭りに参加して～

瀬谷さくら小学校コミュニティ・スクール 館長 河埜光徳

さくら小地域夏祭りに参加するのは、今年で2回目になります。実行委員会から櫓の準備、片付けまで、学校や地域の方々との夏祭りを行う過程で感じたことは、「ちょっと他の夏祭りとは違う・・・」ということでした。それは、各自治会や諸団体及び学校が交流会を中心にまとめ、さくら小地域夏祭りを運営しているということと、その歴史は、下瀬谷小学校の時代から今年で28年間も続いている伝統的な夏祭りであるということでした。



夏祭りでは、櫓の上で1年生と先生が瀬谷音頭やアンパンマン音頭を踊り始めると、櫓の下には多くの人だかりができてい

ました。この踊りは、1年生が地域の方々に生活科の学習の中で教えていただき、一生懸命に練習してきたことをあとで知りました。また各自治会

の出店を見てみると、子ども中心の出店になっていて、「地域で子どもたちを育てよう」ということをより鮮明に伺い知ることができました



瀬谷さくら小学校の校庭をまっすぐに歩けないほど、多くの子どもたちや地域の方々に埋め尽くされたさくら小地域夏祭りは、学校や地域の方々の1大イベントになっていると思いました。そこでは、学校と地域の一体感、各自治会の相互のつながり、親子のふれあいなど多くのことを感じることができました。ひとつの夏祭りではあるけれど、その行事を作り上げる過程の中で培われるものは、今の社会が失いかけている人と人とのつながり、そして親子の絆ではないかと感じました。

瀬谷さくら小学校コミスクは、さくら小地域夏祭りでは施設や用具などの提供が主な仕事ですが、これからも、より学校や地域に親しまれ、より活用されるコミスクを目指していきたいと思

地域連携

## あいさつは人と人との潤滑油

～社明・地区集會に参加して～ 下瀬谷第三町内会 花井尚武

私は、瀬谷さくら小学校学援隊として、児童の登下校時見守りや教育支援活動を行っています。家庭や学校だけでなく地域でも児童の成長を見守っている事を、少しでも児童に感じてもらえればという思いで活動しています。そんな中、7月4日、瀬谷第二小学校で行われた『社会を明るくする運動地区集會・まちの教育座談会』で、小学生、中学生、先生、PTAの皆さんと一緒に、地域代表として



パネルを務めさせて頂きました。

最初に、瀬谷第二小学校、瀬谷さくら小学校、下瀬谷中学校の生徒さんが『あいさつ運動』についての取り組みを発表され、その明るい環境作りに取り組んでいる姿勢に感銘を受けました。『挨拶は人と人との潤滑油』と言われており、社会生活を営む上で欠かせ

ない事で、学校だけでなく企業でも力を入れています。「おはようございます」「ありがとうございました」の挨拶が社員に徹底出来ると、企業イメージが上がり、売上が3割上がると言われてい



ます。簡単なようでなかなか徹底出来ない運動です。地域に於いても挨拶から会話へとコミュニケーションの輪が広がって行く事により、地域社会がより一層明るくなると思います。

私は、初対面の人や余り親しくない人とうまくコミュニケーションを図るために、季節、気候、趣味、ニュース、旅、衣服、食べ物、住居などのテーマを組み合わせるコミュニケーションを取るよう心掛けております。

今回の地区集會に参加して、生徒の皆さんの積極的な姿勢に刺激を受け、地域が明るく住みよい街になるよう、社会人として、自分自身が出来る挨拶運動を展開していく意を強くした地区集會でした。

児童を災害から守る

# 児童を災害から守る ～学校の取組について

瀬谷さくら小学校 副校長 中島早苗

児童440名。瀬谷さくら小学校の児童を災害から守るために、地域の方々からいただいているご支援、ご尽力に、まずは感謝申し上げます。

本稿では、学校の取組に絞ってお伝えしていきます。本校でも他校と同様、学校防災計画を策定し、防災安全部および諸係を置き、日常的な学校防災体制を整備しています。また、学校防災計画の中から初動対応部分については初動対応シートにまとめ、発災時に一目で分かるように掲示しています。



次に避難訓練について紹介したいと思います。年度当初の避難訓練では、災害発生時の行動や避難経路について児童が理解できるように事前にきめ細かく指導しています。その後、毎回、火災や

地震その他の条件（発生場所や時間、校舎の状況）など想定を変えて訓練を行います。既に5回の避難訓練を行いましたが、放送が使えない設定の訓練でも、予告なしの訓練でも、児童は落ち着いて行動できました。11月5日には、緊急地震速報を活用し、実際に速報が発令した際に備える訓練を行いました。予告なしで行いましたので児童には緊張が走りましたが、速報のチャイム音と同時に自分から机の下にもぐり身を守ろうとすることができました。



災害は、いつ発生するか予測できません。児童が、防災に関する正しい知識と災害時の行動の仕方を身に付ける教育を、命を自らが守ろうとする教育を今後も続けていきたいと思っています。

児童を災害から守る

# 保護者もまちの子どもたちを守る意識を

瀬谷さくら小学校PTA会長 石川 茜

皆様こんにちは。PTA会長の石川です。日頃よりPTA活動にご理解ご協力いただきましてありがとうございます。

どうすれば子どもたちを災害から守れるか、インターネット等で調べていた時、ある冊子の内容が目にとまりましたので紹介させていただきます。

東日本大震災の時、釜石小学校の児童184人全員が無事に非難できたそうです。ではなぜ全員無事に非難できたか。3原則、『規定に捕らわれるな』『最善を尽くせ』『率先非難者になれ』を守ったからだそうです。「自分の命は自分で守る」が出来ていたからではないでしょうか。常に親と一緒にいられる訳で



はありません。帰宅途中、一人でお留守番している時、習い事したり放課後友達と遊んだり色々な状況がある

と思います。もちろん保護者も、仕事や買い物など、子どもと離れる場合があるでしょう。その冊子にはこんな事も書かれていました。

「別々の場所で災害にあったらそれぞれが必死に逃げ切って、『後で必ず会おう』と家族で話し合みましょう」。子どもは自分が逃げる前に親を探す、また逆に親は子どもを探す。当然の事かもしれませんが、でもそうする事により、避けられた被害にあってしまうかもしれません。こうならないよう家族で話し合う事はとても重要なのではないのでしょうか。



あの震災の日、私は職場にいました。低学年の子どもたちは帰宅途中でした。地震が起こった時、泣きながら私の職場に駆け寄ってきた子どもがいました。大人がいると子どもたちも安心できるのでしょうか。このさくら小学校の地域では、沢山の方が子どもたちを見守ってくれています。学校や地域に任せるとはではなく、私たち保護者も町の子もたちを守るという意識を持っていなければならないのではないのでしょうか。大勢の方がそういう意識をもてば例え別々の場所にいても子どもたちを守れるのではないのでしょうか。



特別寄稿

# がんばれさくらの子

学援隊 元下瀬谷団地自治会 飯島通博



下瀬谷から宮沢へ転居して、足掛け3年が経ちます。下瀬谷の地を離れて初めて、瀬谷さくら小学校の良さが分かりました。物事を客観的にみるのは、離れてみないとなかなか分からないものです。

今住んでいる地域では、登下校時に交差点で児童を見守る姿が少なく、保護者の方が交代で引率

しているようです。さくら小学校区のように、交差点で児童の元気なあいさつは皆無です。校門付近は不明ですが・・・。

地域と学校が一体となり、夏まつりを実施することも伝わってこないです。そのためか、今でもツイツイさくら小学校の方面へ足が向いてしまいます。皆さんにはご迷惑と思いながら。

それに比べて『さくらの子』は、なんと恵まれていることでしょうか。多くの地域の方々に見守られ、教えていただき、安心して勉強ができる環境で学校生活が送れて。

さくら小学校児童の明るい元気を賞いに、時々、登校時の見守りにお邪魔していますが、よろしくお願い致します。

地域の方々に見守られ、すくすく育つ『さくらの子』頑張れ！！



特別寄稿

# 放課後キッズクラブのその後

瀬谷さくら小学校放課後キッズクラブ 主任 青木俊太郎

本年2月、慣れ親しんだ『はまっ子ふれあいスクール』は閉鎖され、3月より、横浜市の5カ年計画に基づき、公益財団法人よこはまユース『瀬谷さくら小学校放課後キッズクラブ』へと変わりました。

参加児童が減少するのではないかなど、心配な点もありましたが、幾度かの説明会をもち、様々な関係機関や保護者への理解を求め続けたこともあり、本年4月開設以来、6月には大規模1（月平均参加者35人以上）という結果になりました。また、夜間利用児童も平均6～7名と予想以上の結果とな

り、毎日5時を過ぎるとおやつを食しながら楽しい時間を過しております。

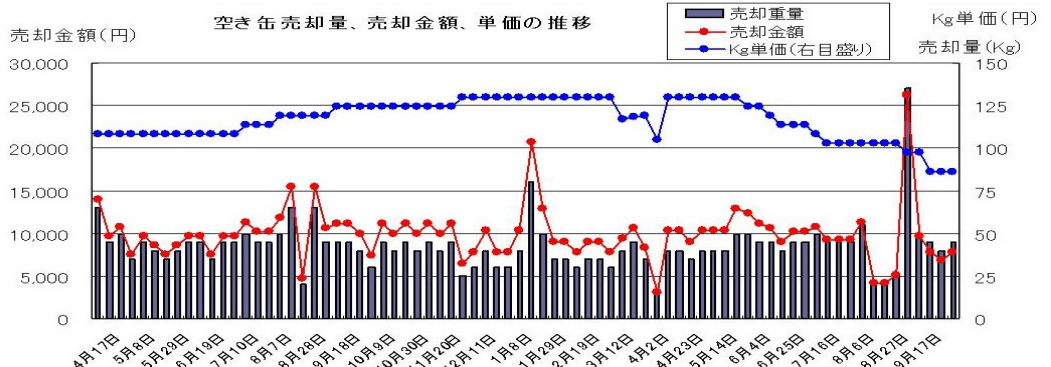
毎月の事業内容も、充実した活動ができるよう、コミュニティスクールとの共催事業や、地域の方々による事業など、ご協力を頂き、また、職員一同で毎月話し合いをもち、アイデアを持寄り実行しております。

これから、参加児童にとっての遊びの場と預かりの場として、更なる充実を図りながら運営していきたいと思っております。



学援隊

※6ページの「青パトとアルミ缶売り」もご覧ください





## 交通安全指導

5月28日下瀬谷地区、6月1日ひなた山地区で、1年生と2年生の児童を対象に、実際の通学路を歩いて、交通安全指導が行われました。

瀬谷警察署、泉警察署、交通安全協会、PTAの皆さんと一緒に、学援隊も安全見守りのお手伝いをしました。

通学中の児童を巻き込む交通事故が多い昨今、子どもたちも自分たちの身を守る知識や行動が必要です。毎年行われているこの指導が、子どもたちのために、少しでも役に立つことを願っています。



## 運動会

『さいごまで 笑顔いっぱい 全力勝負』をスローガンに、10月24日、瀬谷さくら小学校の運動会が開催されました。

見事なフォームで疾走する子、みんなから遅れても最後まで必死に頑張る子、一瞬のすきをついて帽子を奪う秋の陣、迫力満点のさくらソーラン、大会を盛り上げる紅白チームの応援合戦、みんな一生懸命で見てたえがありました。そして、子どもたち自らの手で行った大会運営も、将来、きっと、何かの役に立つことでしょう。



## 防災訓練

口永良部島や箱根でも火山噴火警報が出される中、8月29日、南関東大震災（震度7）を想定した、瀬谷さくら小学校防災拠点の秋季防災訓練が行われました。

例年、炎天下の暑さに耐える訓練で、毎年参加していた瀬谷さくら小学校の児童たちも、今年は参加を見送りましたが、当日は時折小雨がぱらつく涼しい天気で、参加者は訓練に集中することが出来ました。予定されていた起震車が故障のため来なかったり、ご飯がうまく炊けなかったりのトラブルは発生しましたが、災害について考えるよい機会になったと思います。

### 瀬谷さくら小学校学校運営協議会

## ふれあい活動展

日時 12月5日 土曜日 午前9時～  
場所 瀬谷さくら小学校体育館、廊下

学校運営協議会各部会の活動を写真で紹介し、研修会「さくらの会」に代わる催しです。当日開かれている学習発表会の折に、あるいは、学校へお越しの際に是非ご覧ください（しばらく展示しています）

### 瀬谷さくら小学校コミュニティスクール

## 下瀬谷鍋を食べよう会

日時 12月12日 土曜日 午前9時～12時  
場所 瀬谷さくら小学校ふれあい広場

地元の野菜を使った、貝だくさんのトン汁を、みんなで作り、みんなでいただきます。大勢のみなさんのご来場をお待ちしています

### 【編集後記】

ここ数年、第2号は「さくらの会」特集として、さくらの会での各部会の活動報告を中心に掲載してきました。さくらの会は、さくら小学校の教育活動を支援する方々（さくらの子応援隊）が集い、活動内容の共通理解を図るとともに、保護者や地域の方々に、その活動を知っていただくことを目的として始めました。

今年は、従来の発表会形式をやめ、「ふれあい活動展」を開催することになったため、本誌では、さくらの子応援隊の代表的な方々に原稿の執筆を依頼し掲載しました。

学校運営協議会だより  
平成27年度・第2号  
平成27年11月30日  
横浜市立瀬谷さくら小学校  
学校運営協議会  
発行責任者  
会長 網代宗四郎  
編集  
広報・学校評価部会